

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	齋藤 早紀子 【国際日本学専攻 平成18年度生】	<p>本論文の目的は、舞踊経験者の中でもトレーニング法の確立されているバレエダンサーを対象に、下肢の巧緻性とその背景にある神経生理学的特性を明らかにすることであった。論文は主に2つの実験研究から構成された。第一の研究では、バレエダンサーの足底屈運動の随意運動の制御能力を主動筋の活動特性から検討した。その結果、ダンサーの足底屈運動の関節角度制御能力は高く、課題遂行中のヒラメ筋活動量の周波数分析からバレエ群の特徴が見出され、バレエ特有の足関節運動の繰り返しがヒラメ筋運動単位の動員様式や発火頻度調節に変化を引き起こす可能性が示された。第二の研究では、長期的なバレエトレーニングによる中枢神経系の可塑的变化を明らかにするために、対側一次運動野から脊髄運動ニューロンを介してヒラメ筋に投射する皮質脊髄路の興奮性を検討した。その結果、ダンサーの随意筋収縮中の皮質脊髄路の興奮性は対照群に比べて有意に高く、長期的なバレエのトレーニングにより足底屈運動の主動筋であるヒラメ筋の皮質脊髄路の興奮性が増大していることが示された。</p> <p>審査では、舞踊という運動を生理学的手法により分析した先行研究が少ないことから、その新規性および独創性が高く評価された。一方、仮説に至る論の展開や2つの実験研究の関連性を更に明確にする必要性が指摘された。加えて研究成果の生理学的な背景についても詳細な説明が求められた。筆者は、審査委員会からの指摘を適切に修正するとともに、特に第二の研究結果の持つ生理学的な意義については、先行研究の結果を踏まえて長期のバレエ経験により脊髄より上位での中枢神経系での適応の可能性を示した。</p> <p>これらの修正を審査委員会は妥当なものとして評価した。公开发表における質疑も簡潔明瞭であった。以上の点から、本審査委員会は、本論文を博士論文としての水準に充分達していると判断し、博士(学術)、Ph. D. in Exercise Science に相当するものと認めた。</p>
論文題目	長期舞踊経験者の運動制御～下肢随意運動の神経生理学的特性～	
審査委員	(主査) 准教授 水村 真由美	
	教授 太田 裕治	
	教授 石口 彰	
	教授 新名 謙二	
インターネット公表	東京大学大学院総合文化研究科 教授 中澤 公孝	
	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ <input checked="" type="radio"/> 否)</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="radio"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	